

「農林水産物・食品の輸出拡大のための
輸入国規制への対応等に関する関係閣僚会議」
台湾の輸入規制緩和に伴う輸出への期待

JAふくしま未来

かずまた せいいち
数又 清市

JAふくしま未来のご紹介

桃・きゅうり・あんぽ柿・飼料用米の国内有数の産地
復興の象徴である「伊達のあんぽ柿」はGI登録を目指す



特産品の「伊達のあんぽ柿」



あんぽ柿の生産農家

- 福島県北地域の12市町村を管轄
- 『桃・夏秋きゅうり・あんぽ柿』の三品目が、JA取扱い販売高日本一・飼料用米もさかん
- 「伊達のあんぽ柿」としてのブランド価値向上・販路拡大のため、商標を登録し、地理的表示（GI）についても登録申請中

輸出の経緯・概要

震災後の販売チャネルの拡大や風評被害払拭に向けて 福島県・JAグループが協力し、青果物輸出拡大に注力



個包装のあんぽ柿パッケージ



ドバイ現地レストラン BENTO-YA

- 震災前の**2008年**に輸出を開始し、旧：JA伊達みらいが中心となり、**台湾向けに桃**を中心に輸出（70～80トン/年）
- 震災で輸出がストップしたが、桃輸出を**5年前から再開**したことを皮切りに、輸出取組を強化
- JAグループが協力し、福島県産青果物の輸出拡大にチャレンジ（**桃・なし・りんご・あんぽ柿**）
 - **タイ・シンガポール**の輸出拡大を目指す
 - **ドバイ**向け冷凍あんぽ柿の開発も実施
- 輸出額：**1,265万円**(令和3年度)

あんぽ柿の輸出経緯

生の果物よりも鮮度保持が容易な「あんぽ柿」の輸出に注力・福島県内関係者一丸で冷凍あんぽ柿商品開発を実施



ドライフルーツ需要がある中東

- 平成31年1月：首相官邸訪問時に、「**ドライフルーツ**は**中東**でも人気があるので、輸出に取組んでみてはどうか」という助言を当時の安倍総理より頂戴
- 「あんぽ柿」の輸出に向け、県内関係機関・団体が連携し、「**あんぽ柿輸出研究会**」を設置し、遠方へも輸出可能な**冷凍あんぽ柿**の商品開発を実施



冷凍あんぽ柿の輸送

- 生の果物に比べると、**鮮度保持や輸送が容易**で、**付加価値**を付けることが可能
- ただし、あんぽ柿は、水分が多い特徴があり、国内では**30日が賞味期限**となっているため、**輸送期間の短縮・コールドチェーン確保**は課題

あんぽ柿の輸出取組

賞味期限延長を図る冷凍試験を通じてドバイ輸出に成功・ 現地レストラン向けのメニュー提案によるマーケティングも推進



ドバイ向けの出荷準備



あんぽ柿とクリームチーズのサーモン巻

- 冷凍試験により、**冷凍賞味期限**を**1年**に延長でき、**ドバイ向け輸出**に成功（空輸と船便の組み合わせ）
 - 販売価格：1,260円/パック(特秀4L)
 - 現地小売店からは「**甘みの強さ**」や「**乳製品やナッツとの組み合わせの良さ**」に高評価を獲得
- **現地レストラン**への提案を強化・販路拡大を促進
 - **クリームチーズ**と添える、**ジェラート**にあんぽ柿を刻んで混ぜる、ナッツと和えた**サラダ**に混ぜる、等の食べ方が現地ニーズが高い
 - 「あんぽ柿とクリームチーズのサーモン巻」、「あんぽ柿と鮮魚のタルタル仕立て」等のメニューを提供
- 【令和3年度】タイ向け：**460kg**（前年：85kg）、シンガポール向け：**143kg**、ドバイ向け：**184kg**

台湾の放射線関連規制緩和を踏まえた期待

震災前に輸出実績があり、春節需要が見込める台湾輸出の期待は大きく、安心・安全の訴求を行うことが重要



春節需要が見込める台湾市場



検査・確認の証明シールの添付

- 震災前は台湾への桃輸出を行っていたため、台湾向け輸出の復活は悲願
- 縁起のよい“赤い果物”へのニーズが高く、春節向けを中心に高いポテンシャルが見込める市場
- 国内価格は1月中旬以降に下がる傾向であり、春節期に輸出することは国内の単価維持のためにも重要
 - 福島産あんぽ柿は、年明けの出荷が70%であり、数量から見ても春節を狙うのが重要
- 果樹の伐採・パックごとの全量検査等を通じて、安心・安全の確保に向けた取組を強化しており、安心・安全の訴求は国としても引き続き取り組んで頂きたい